

世界のビジネスニュース(通商弘報)

日刊 **通商弘報**

ジェトロデイリー

通商弘報は、ジェトロの海外事務所で収集した最新のビジネス情報を提供するサービスです。

**JETRO**

記事詳細

ITサービス業務の受託に関心高まる - 国内最大のIT展示会開催 - (フィリピン)

2007年03月02日

マニラ発

添付ファイル：なし

45e7a7b973f7b

国内最大の情報通信技術分野の展示会「Eサービス・フィリピン」が2月15、16日、開催された。ソフトウェア開発やコールセンターなどの業務受託を手掛ける国内企業約200社が出展。日本からは22社が視察団を組んで参加し、今後のITサービス業務委託の可能性を探った。

< 2日間で3,400万ドル以上の成約 >

今年で7回目を迎えるこの展示会は、ソフト開発、コールセンター、アニメーション、ビジネス・プロセス・アウトソーシング(一部業務プロセスの外部委託、以下BPO)、メディカル/リーガル・トランスクリプション(医療情報や法令の転写サービス)などを対象とする。

今回は主に外国企業からの業務受託を目指す約200社の国内企業が出展、外部委託先を探す企業と活発に商談した。展示会の運営を担当した国際貿易促進センター(CITEM)によれば、商談成約額は2日間の合計で3,440万ドルに達した。

日本からは、IT関連企業22社が視察団を組んで参加した。会期中、日本企業向けにフィリピンのIT事情を説明する特別プログラムもあった。

今年の「Eサービス・フィリピン」では、各種会議も併催された。ジェンパクトなど世界的なBPO企業の経営者が講演するフォーラムでは、アロヨ大統領が演説し、ITサービス分野でのフィリピンの強みは、整った通信インフラやオフィス施設、豊富な人材にあると指摘。インフラ整備を重視する政策が効果を上げつつあると自賛した。同会議には、インドを代表するIT業界団体インドソフトウェア・サービス協会(NASSCOM)のカルニク会長も出席し、知的業務を外部委託するナレッジ・プロセス・アウトソーシング(KPO)について講演した。

< コールセンターとBPOは急成長 >

フィリピンでは近年、コールセンターやBPOが急成長を遂げている。コールセンターの規模は、2001年の3,500席から、06年の8万席へ急拡大した。欧米企業は、コールセンターの運営拠点として、フィリピンを高く評価しており、同分野への新規進出や既存施設の拡張が加速している。フィリピン・コンタクトセンター協会(CCAP)は、10年までに同産業の規模が50億ドル、25万席に達すると予測している。また、BPO業界についても、06年第1四半期末時点で2万4,500人を正規雇用しており、05年の収入は前年比80%増の1億8,000万ドルに上ったとされる。

< アヤラ財閥のIT子会社が日本へ進出 >

有力財閥アヤラグループのIT子会社アヤラ・システムズ・テクノロジー(ASTI)は06年11月に、日本法人ASJ(千葉県美浜区)を設立、07年1月から事業を開始した。同社は、顧客企業にソフト開発やITサポートセンター・データセンター分野のIT技術者を派遣するほか、フィリピンへの業務委託や同国での事業化を進める企業へ進出支援サービスを提供している。同じアヤラグループで、電子機器の組み込みシステム開発や製造受託(EMS)を手掛けるインテグレイテッド・マイクロエレクトロニクス(IMI)も05年7月に日本事務所を開設しており、フィリピン企業の日本市場開拓が始まっている。



(米山洋)

JETRO

No.45158

通商弘報

閉じる

Copyright (C) 1995- 2007 JETRO. All rights reserved.